

10. 政策科学研究部

室長：竹原 健二

【ミッション・目標】

当研究部のミッションは、成育医療および保健に関連する情報の収集および分析を通じ、健全な次世代育成に資する政策提言・情報発信・研究活動を行うことである。「政策」を看板に掲げる研究部として、様々な研究手法を活用しながら研究根拠に基づく政策（Evidence-based health policy）への貢献を行うために、以下の四つの柱を立てて研究している。また、得られた知見は国民に幅広く届けるよう努めている。

第一の柱：政策の実施・評価に使用しやすい手法を用いた研究推進と支援

成育医療や健全な次世代育成のための介入プログラムについて、系統的レビューおよび統合的な分析方法（メタ解析）、医療経済的な分析、実装研究などの手法を用いて、その評価や普及・実装を支えるための根拠の提示を通じ、意思決定への貢献を試みている。

第二の柱：二次データの利活用とその体制構築

国や地域の疾患や公衆衛生の実態を把握するために、代表性の高いデータの分析を通じて資料作成および政策提言をおこなっている。政府統計やレセプト情報（NDB）の利活用およびその体制構築に取り組んでいる。

第三の柱：一次データを用いた疫学研究

既存データの利活用に加え、仮説生成・検証をおこなうための疫学調査にも取り組んでいる。国内外で観察研究だけでなく、政策介入の代表的研究デザインであるランダム化比較試験を手がけている。

第四の柱：政策・事業実施支援と評価体制の構築

国や自治体実施する成育医療・母子保健に関連する事業の実施において、様々な研究手法を用いた支援を行っている。

【研究プロジェクト】

1. 系統的レビューの実施と支援体制の構築
2. 診療レセプトを用いた周産期・小児・思春期における健康課題の抽出に関する研究
3. 子どもの予防可能な死亡や外傷の削減に関する研究
4. 父親のメンタルヘルスの実態把握やその支援に関する研究
5. ヒト受精卵に対するゲノム編集技術の臨床利用に関する意識調査
6. 保育環境の向上に関する研究
7. モンゴルにおける精神保健に関する研究
8. モンゴル国における運動介入と脳機能の関連に関する介入研究
9. アンゴラにおける母子健康手帳の有効性に関する介入・実装研究
10. ナイジェリアにおける妊婦の栄養状態と体重増加や母児の健康に関する研究
11. 医療経済的な分析

12. 妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠の妊娠転帰の多施設前向き研究
13. 無痛分娩における胎児心拍異常の予後とリスク因子に関する研究
14. 人口動態調査のリンケージからみた産後一年の女性の死亡に関する研究
15. 精神疾患の子どもの診療経過と多機関連携の実態把握

【研究体制】

室長：竹原健二

研究員：山本依志子、須藤茉衣子、川崎麻紀、矢竹暖子（2019年6月～）、Olukunmi Balogun(2020年4月～)、友カカリネ香織（～2020年3月）、青木藍（2020年4月～）、大塚美耶子（2020年10月～）

共同研究員：諏訪敏幸（大阪大学大学院）、橋本直也（株式会社 Kids Public）、柳川侑子（東京大学大学院）、鈴木博道、森桂（厚生労働省医政局～2020年3月）、芹澤優子（朝日新聞総合サービス株式会社）、澤田樹美（名古屋女子大学）、安藤友久（株式会社 Kids Public）、片岡智恵美、田中俊之（株式会社 Kids Public）、岡田理子（～2020年11月）、渡邊康子、山路野百合（～2020年3月）、蓋若琰（国立社会保障・人口問題研究所）、辻麻里子（～2020年3月）、鈴木敦子（津田塾大学～2020年3月）、小河邦雄、保田桂（～2020年3月）、西田俊彦（グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン 2019年12月～）、北村光司（産業技術総合研究所 2020年9月～）、山崎むつみ（静岡がんセンター2020年10月～） 渡邊正彦（2020年11月～）

研究補助員：新村美知、Dhungel Bibha（2020年6月～）

事務補助員：清水桃子、加藤直美、花井範子

【国際共同研究】

モンゴル医学大学、モンゴル体育大学、アンゴラ国保健省、アブジャ医科大学（ナイジェリア）

【国内共同研究】

群馬県、山梨県、滋賀県、三重県、香川県、高知県、京都府、筑波大学、山梨大学、三重大学、名古屋大学、北里大学、大阪教育大学、日本赤十字看護大学、国立保健医療科学院、6NC 連携事業（国立国際医療研究センター、国立がん研究センター、国立精神・神経医療研究センター、国立循環器医療研究センター、国立長寿医療研究センター）、都立小児医療研究センター、国際協力機構（JICA）、京都大学、聖路加国際大学

【研究の概要】

1) 系統的レビューの実施と支援体制の構築

NPO 法人コクランジャパンで文献検索・事務局を担当していた Librarian などと連携し、センター内においてシステマティックレビュー、スコアピングレビューを実施するための支援を行っている。また研究部としても、産前教育や産後ケア等の周産期支援の効果、低出生体重の予後リスク・及び介入効果、学校における健康教育などのレビューおよびオーバービュー・レビューをまとめている。

2) 診療レセプトを用いた周産期・小児・思春期における健康課題の抽出に関する研究

National Database (NDB) や JMDC Claims Database などのレセプトデータを用いて、周産期や小児・思春期の健康課題の抽出を行うとともに、小児外傷や発達障害、川崎病の実態把握などにも取り組んでいる。また、NDB の利用に関する法律改正にもなって、当センター内での NDB の利用体制の構築も主導している。

3) 子どもの予防可能な死亡の削減に関する研究

厚生労働省が実施している Child Death Review のモデル事業の対象となっている 7 府県において、事業体制の構築や実施支援を主導している。また、CDR の意義などに関する既存資料の整理や、事業の評価方法の提案を行っている。

4) 父親のメンタルヘルスの実態把握やその支援に関する研究

複数の調査を組み合わせ、わが国における父親においても産後はメンタルヘルスの不調のリスクが高くなることを示し、専門家のみならず国民にも広く周知してきた。現在は、父親を支援するための保健行政の取り組みに関する検討を行っている。

5) ヒト受精卵に対するゲノム編集技術の臨床利用に関する意識調査

ヒト受精卵に対するゲノム編集技術の臨床利用について、専門委員会の提言に基づいてその問題点や課題を整理し、国民の知識を高める教育資材の開発を行った。また、この技術の臨床利用に対する国民や専門家の意識を明らかにし、法規制のあり方の検討時の基礎資料とするための意識調査を実施している。

6) 保育環境の向上に関する研究

国内の保育事故に関する各データベースを用いて、事故の要因や対策に関する情報を整理している。また海外における保育施設の基準や保育ガイドラインに関しても情報を収集し、保育環境に関する質的・量的データを包括的に整理・検証する研究を行っている。

7) モンゴルにおける精神保健に関する研究

モンゴル国の唯一の精神科専門医療機関の児童思春期外来に通院する子どもを対象に調査を行い、国際的な精神保健の質問紙のモンゴル国における有効性の検討や、モンゴル国における子どもの精神保健上の問題のリスク因子の分析を行っている。

8) モンゴル国における運動介入と脳機能の関連に関する介入研究

モンゴル国ウランバートル市の 1 つの地区の公立小学校において、高強度の運動の実施が脳機能や心身の健康状態に及ぼす影響に関するクラスター RCT を実施した。現在、その結果を英語論文として投稿中である。また、運動の効果の媒介分析なども行っている。

9) アンゴラにおける母子健康手帳の有効性に関する介入・実装研究

アンゴラ共和国ベンゲラ州において、母子健康手帳のプロジェクトが地域の妊産婦の産前・産後の保健医療サービスの継続利用にもたらす効果を検証するためのクラスターRCTを実施した。COVID-19の影響により延期を余儀なくされた時期もあったが、1万人以上の対象者の参加を得て調査は終了し、データのクリーニングが完了したところである。また、RCTと並行して同プロジェクトの実装状況を評価し、その阻害因子や促進因子を明らかにするための調査を行っている。

10) ナイジェリアにおける妊婦の栄養状態と体重増加や母児の健康に関する研究

ナイジェリアのアブジャにある第三次医療施設で、妊娠中の栄養状態と体重増加および妊娠糖尿病との関連に関する縦断研究を実施している。妊娠前のBMIや妊娠期間の体重増加量の推定と、経口ブドウ糖負荷試験の結果の関連について解析を行っている。

11) 医療経済的な分析

小児レスパイトケアにおけるサービスについて、利用者の嗜好の順位付け、さらにそれに対するWillingness to pay推定のためのインタビュー調査、解析を行っている。

小児の外傷が社会に与えるインパクトについて医療経済的な観点からの評価を試みている。小児診療では保護者の介護も必須なことから、直接医療費、間接医療費、生産性損失を含む費用対効果分析の実施に向けて取り組んでいる。また、出生からの人のウェルビーイングを経済的観点から評価できるような研究手法の開発を行っている。

12) 妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠の妊娠転帰の多施設前向き研究

日本糖尿病・妊娠学会が主体となって行っているDREAMBee Study (D i a b e t e s s and P r e g n a n c y O u t c o m e f o r M o t h e r a n d B a b y S t u d y) 妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠の妊娠転帰および母児の長期予後に関する登録データベース構築による多施設前向き研究を2015年10月から施行している。その研究事務局として中心的に関わっている。

13) 無痛分娩における胎児心拍異常の予後とリスク因子に関する研究

当センターで無痛分娩を受けた妊婦の麻酔導入前後のCTGを収集し、麻酔導入直後の胎児心拍異常が起こった症例の分娩転帰と胎児心拍異常が発生するリスク因子について解析を行なっている。

14) 人口動態調査のリンケージからみた産後一年の女性の死亡に関する研究

人口動態調査の死亡票・個票と出生票・個票、死産票・個票等をリンケージし、産後一年以内の女性の死亡を同定して、その死因や背景因子の解析を行なっている。

15) 精神疾患の子どもの診療経過と多機関連携の実態把握

精神疾患および発達障害の子どもたちに対する診療と多機関連携の実態把握を行い、子どもや家族の生活の質の向上や症状の改善のために、より積極的に多機関連携を行いやすくするための診療報酬改定の検討に資する根拠作りを行っている。

【2019 年研究業績】

1. 誌上発表

(1) 英文原著

1. Noyuri Yamaji, Katharina da Silva Lopes, Tetsuo Shoda, Kazue Ishitsuka, Tohru Kobayashi, Erika Ota, Rintaro Mori. TNF- α blockers for the treatment of Kawasaki disease in children. *Cochrane Database Syst Rev*. 2019;16;8(8):CD012448. doi: 10.1002/14651858.CD012448.pub2.
2. Ruoyan Gai Tobe, Mohammad Tajul Islam, Yukie Yoshimura, Jahangir Hossain. Strengthening the community support group to improve maternal and neonatal health seeking behaviors: A cluster-randomized controlled trial in Atchara District, Bangladesh. *PLoS One*. 2019;14(2):e0212847. doi: 10.1371/journal.pone.0212847.
3. Kimi Sawada, Koji Wada, Sadequa Shahrook, Erika Ota, Yukari Takemi, Rintaro Mori. Social marketing including financial incentive programs at worksite cafeterias for preventing obesity: a systematic review. *Syst Rev*. 2019;28;8(1):66. doi: 10.1186/s13643-019-0965-0.
4. Daichi Suzuki, Windy M V Wariki, Maiko Suto, Noyuri Yamaji, Yo Takemoto, Mosfequr Rahman, Erika Ota. Secondhand Smoke Exposure During Pregnancy and Mothers' Subsequent Breastfeeding Outcomes: A Systematic Review and Meta-Analysis. *Sci Rep*. 2019;9(1):8535. doi: 10.1038/s41598-019-44786-z.
5. Akira Ishiguro, Osamu Nomura, Nobuaki Michihata, Tohru Kobayashi, Rintaro Mori, Katsumi Nishiya, Kazunari Kaneko, Japan Pediatric Society Steering Committee of Board Examination. Research during pediatric residency training: a nationwide study in Japan. *JMA Journal*. 2019;2(1):28-34. doi: 10.31662/jmaj.2018-0007
6. Kanako Hisa, Megumi Haruna, Naoko Hikita, Emi Sasagawa, Kaori Yonezawa, Maiko Suto, Erika Ota. Prevalence of and factors related to anemia among Japanese adult women: Secondary data analysis using health check-up database. *Sci Rep*. 2019;9(1):17048. doi: 10.1038/s41598-019-52798-y.
7. Amarjargal Dagvadorj, Daniel J Corsi, Narantuya Sumya, Katherine Muldoon, Shi Wu Wen, Kenji Takehara, Rintaro Mori, Mark C. Walkera. Prevalence and determinants of mental health problems among children in Mongolia: A population-based birth cohort. *Global Epidemiology*. 2019; 1:100011. doi.org/10.1016/j.gloepi.2019.100011
8. Shuhei Yamamoto, Takayoshi Yamaga, Kenichi Nishie, Chie Nagata, Rintaro Mori. Positive airway pressure therapy for the treatment of central sleep apnoea associated with heart failure. *Cochrane Database Syst Rev*. 2019;12(12):CD012803. doi: 10.1002/14651858.CD012803.pub2.
9. Ruoyan Gai Tobe, Hiroshi Fuji, Hirohito Metoki, Akira Ehara, Tsuguhiko Kato, Hakuyo Ebara, Toshihiko Nishida, Gen Kobashi, Rintaro Mori. Perspectives of value-based policy making in child health care in Japan. *Ann Transl Med*. 2019;7(6):126. doi: 10.21037/atm.2018.11.52.
10. Malinee Laopaiboon, Pisake Lumbiganon, Siwanon Rattanakanokchai, Warut Chaiwong, João Paulo Souza, Joshua P Vogel, Rintaro Mori, Ahmet Metin Gülmezoglu. An outcome-based definition of low birthweight for births in low-and middle-income countries: a secondary analysis of the WHO global survey on maternal and perinatal health. *BMC Pediatr*. 2019;19(1):166. doi: 10.1186/s12887-019-1546-z.
11. Bao Yen Luong Thanh, Pisake Lumbiganon, Porjai Pattanittum, Malinee Laopaiboon, Joshua P Vogel, Olufemi T Oladapo, Cynthia Pileggi-Castro, Rintaro Mori, Kapila Jayaratne, Zahida Qureshi, João Souza. Mode of delivery and pregnancy outcomes in preterm birth: a secondary analysis of the WHO Global and Multi-country Surveys. *Sci Rep*. 2019;9(1):15556.

- doi: 10.1038/s41598-019-52015-w.
12. Rintaro Mori. An Evidence-based Approach toward a Sustainable Healthcare System. JMA Journal. 2019; 2(1):70. doi: 10.31662/jmaj.2018-0014
 13. Kenji Takehara, Togoobaatar Ganchimeg, Akihito Kikuchi, Lkagvasuren Gundegmaa, Lkagvasuren Altantsetseg, Ai Aoki, Takemune Fukuie, Kazuya Suwabe, Shagdar Bat-Erdene, Masashi Mikami, Rintaro Mori, Hideaki Soya. The effectiveness of exercise intervention for academic achievement, cognitive function, and physical health among children in Mongolia: a cluster RCT study protocol. BMC Public Health. 2019;19(1):697. doi: 10.1186/s12889-019-6986-8.
 14. Xiuting Mo, Ruoyan Tobe Gai, Kimi Sawada, Yoshimitsu Takahashi, Sharon E Cox, Takeo Nakayama, Rintaro Mori. Coronary heart disease and stroke disease burden attributable to fruit and vegetable intake in Japan: projected DALYS to 2060. BMC Public Health. 2019;19(1):707. doi: 10.1186/s12889-019-7047-z.
 15. Takayuki Harada, Hiroshi Tsutomi, Rintaro Mori, David B Wilson. Cognitive-behavioural treatment for amphetamine-type stimulants (ATS)-use disorders. Cochrane Database Syst Rev. 2018;12(12):CD011315.
 16. Daichi Suzuki, Windy M V Wariki, Maiko Suto, Noyuri Yamaji, Yo Takemoto, Md Mosfequr Rahman, Erika Ota. Association of secondhand smoke and depressive symptoms in nonsmoking pregnant Women: A systematic review and meta-analysis. J Affect Disord. 2019;245:918-927. doi: 10.1016/j.jad.2018.11.048.
 17. Shinji Katsuragi, Hiroaki Tanaka, Junichi Hasegawa, Naohiro Kanayama, Masahiko Nakata, Takeshi Murakoshi, Kazuhiro Osato, Masamitsu Nakamura, Kayo Tanaka, Akihiko Sekizawa, Isamu Ishiwata, Yoshiko Yamamoto, Tomoko Wakasa, Makoto Takeuchi, Jun Yoshimatsu, Tomoaki Ikeda. Analysis of preventability of malignancy-related maternal death from the nationwide registration system of maternal deaths in Japan. J Matern Fetal Neonatal Med. 2019;1-7. doi: 10.1080/14767058.2019.1609930.
 18. Megumi Haruna, Masayo Matsuzaki, Erika Ota, Mie Shiraishi, Nobutsugu Hanada, Rintaro Mori. Guided imagery for treating hypertension in pregnancy. Cochrane Database Syst Rev. 2019;4(4):CD011337. doi: 10.1002/14651858.CD011337.pub2.

(2) 英文総説・著書
該当なし

(3) 和文原著

1. 友滝寛子, 豊島勝昭, 野口聡子, 盛一享徳, 大山牧子, 猪谷泰史, 森臨太郎. NICU 退院児フォローアップの取り組み 電子化を含めた NICU 退院手帳. 日本新生児成育医学会雑誌. 2019;31(1): 110-117

(4) 和文総説・著書

1. 三上剛史, 竹原健二, 須藤茉衣子, 小林徹, 菊地佳代子, 佐々木八十子, 佐古まゆみ, 諫山哲哉, 余谷暢之, 佐々木隆司, 井手健太郎, 朴慶純, 永田知映, 石黒精. 臨床研究主任研究者育成を目的とした実践的トレーニングコース. 日本小児科学会雑誌. 2019; 123(2):308
2. 須藤茉衣子, 高橋睦子, 佐藤拓代, 井村真澄. 海外レポート 2019 年フィンランド訪問ネウボラからの学び : 切れ目のない支援を実現する多職種連携の取り組み. 助産雑誌. 2019;73(8): 668-673
3. 川崎麻紀, 荒田尚子, 和栗雅子, 飯村祐子, 山本周美, 川寄有紀, 牧尉太, 玉田祥子, 青山友子, 田中茂徳, 秦健一郎, 宮越敬, 橋本貢士, 杉山隆, 安日一郎, 曾根 博仁, 菊池

- 透, 瀧本秀美, 安田和基, 小川佳宏, 大田えりか, 井上永介, 平松祐司. 2 型糖尿病発症予防のための妊娠糖尿病妊婦への非薬物的強化介入の試み. 糖尿病と妊娠. 2019;19(3): S-96
4. 川崎麻紀, 荒田尚子, 和栗雅子, 飯村祐子, 山本周美, 川寄有紀, 牧尉太, 玉田祥子, 青山友子, 田中茂穂, 秦健一郎, 宮越敬, 橋本貢士, 杉山隆, 安日一郎, 曾根 博仁, 菊池透, 瀧本秀美, 安田和基, 小川佳宏, 大田えりか, 井上永介, 平松祐司. GDM のフォローアップ 2 型糖尿病発症予防のための妊娠糖尿病妊婦への非薬物的強化介入の試み. 糖尿病と妊娠. 2019;19(2): S-35-S-38
 5. 竹原健二. 産後の 2 週間・1 ヶ月健診 母子のアセスメント&ケア メンタルヘルス・母乳育児・新生児の発達まで気になるサインを見逃さない《Topics2》父親の産後うつ. ペリネイタルケア. 2019;38(10): 985-988
 6. 飯村祐子, 荒田尚子, 鬼頭健一, 山田未歩子, 鴨志田純子, 川崎麻紀, 佐藤志織, 小林佐依子, 村島温子. 1 型糖尿病合併妊婦におけるスマートガード付き SAP 使用の妊娠分娩および授乳期管理の経験. 糖尿病. 2019;62(7): 420
 7. 須藤茉衣子. 医療的ケア児の在宅医療サービス利用状況に関するレセプトデータ分析 (2018 年度(第 22 回)研究助成 研究要旨). Monthly IHEP (291), 27-29, 2019-11

2. 学会発表

(1) 国際学会講演・シンポジウム

1. Naoko Arata, Maki Kawasaki, Masako Waguri, Yuko Iimura, Takashi Sugiyama, Ichiro Yasuhi, Hirohito Sone, Toru Kikuchi, Hidemi Takimoto, Kazuki Yasuda, Yoshihiro Ogawa, Yuji Hiramatsu. Intensive non-pharmacological intervention for preventing type 2 diabetes in pregnant women with gestational diabetes(ポスター)IDF 2019.2019 年 12 月.釜山.
- (2) 国際学会等一般演題発表
 1. Ruoyan Gai, Syed Emdad Haque, Kiyoko Ikegami, Rintaro Mori. Economic Evaluation of an Enhanced Intervention for Home-Based Maternal Record By mHealth to Improve Continuum of Care in Rural Bangladesh. 2019 World Congress on Health Economics.
 2. Noyuri Yamaji, Maiko Suto, Yo Takemoto, Daichi Suzuki, Katharina da Silva Lopes, Erika Ota: Supporting the Decision Making of Children With Cancer: A Meta-synthesis. eP229 ICN 2019 in Singapore from 27th June to 1st July

(3) 国内講演・シンポジウム等

1. 川崎麻紀, 荒田尚子, 杉山隆, 守屋達美, 平松祐司「妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠の妊娠転帰および母児の長期予後に関する登録データベース構築による多施設前向き研究に関する多施設前向き研究」進捗状況.第 35 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会. 東京.2019 年 11 月

(4) 国内学会一般演題

1. 川崎麻紀, 荒田尚子, 和栗雅子, 飯村祐子, 山本周美, 川寄有紀, 牧尉太, 玉田祥子, 青山友子, 田中茂穂, 秦健一郎, 宮越敬, 橋本貢士, 杉山隆, 安日一郎, 曾根博仁, 菊池透, 瀧本秀美, 安田和基, 小川佳宏, 大田えりか, 井上永介, 平松祐司「2 型糖尿病発症予防のための妊娠糖尿病妊婦への非薬物的強化介入の試み」第 35 回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会.横浜.2019 年 11 月

【研究費】

公的研究費（研究代表者）

1. 日本学術振興会 学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）「唾液検体を用いた父親の産後うつへの解明と、労働やQOLに及ぼす影響に関する研究」竹原健二（直接経費 400 千円）
2. 成育医療研究開発費「わが国における乳幼児期の子どもを育てる父親の健康および生活の実態と子どもの健全育成に関する政府統計の利用と系統的レビューによる解明」竹原健二（直接経費 1,269 千円）
3. 運営交付金 横断的研究推進事業「6NC 連携による医療政策研究等を目的とした NDB 研究体制構築のための研究」竹原健二（直接経費 1,000 千円）
4. 運営交付金 横断的研究推進事業「実装科学推進のための基盤構築事業」竹原健二（直接経費 3,500 千円）
5. 日本学術振興会 学術研究助成基金助成金(若手)「保育の質と安全を保障する、保育施設設置基準の再検討に関する調査研究」須藤茉衣子（直接経費 1,500 千円）
6. 日本学術振興会 学術研究助成基金助成金(若手)「妊娠糖尿病既往女性における産後の体重変化と糖尿病発症抑制の評価」川崎麻紀（直接経費 800 千円）

公的研究費（研究分担者）

1. 厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「身体的・精神的・社会的（biopsychosocial）に健やかな子どもの発育を促すための切れ目のない保健・医療体制提供のための研究」竹原健二（直接経費 1,500 千円）
2. 厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「わが国の至適なチャイルド・デス・レビュー制度を確立するための研究」竹原健二（直接経費 4,500 千円）
3. 日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業「周産期・小児領域における高品質臨床研究推進のための臨床研究コンソーシアム」竹原健二（研究代表者一括管理）
4. 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究（A）「包括的な疾病負荷分析に基づく我が国の保健政策課題の実証的研究」山本依志子（直接経費 400 千円）
5. 成育医療研究開発費「成育データコモンズの構築」須藤茉衣子（研究代表者一括管理）
6. 成育医療研究開発費「わが国における乳幼児期の子どもを育てる父親の健康および生活の実態と子どもの健全育成に関する政府統計の利用と系統的レビューによる解明」須藤茉衣子（研究代表者一括管理）

私的研究費（研究代表者）

1. JICA 受託研究費「母子手帳が母子保健指標に与える影響の調査（インパクト調査）」竹原健二（直接経費 7,796 千円）
2. トヨタ財団研究助成プログラム「「イクメン」はわが国の父親のありようの理想像といえるのかー「イクメンブーム」がもたらした影響とそれにより失った何かを問い直すー」竹原健二（直接経費 1,300 千円）

3. 医療経済研究機構 2019 年度若手研究者育成研究助成「医療的ケア児の小児保健医療サービス利用状況に関するレセプトデータ分析」須藤茉衣子（直接経費 500 千円）

【その他】

[講演等]

該当なし

[教育活動]

1. 竹原健二. 「保健医療政策学について」筑波大学大学院人間総合科学研究科. 講義. つくば. 2019.11.14
2. 須藤茉衣子. 「ウィメンズ・ヘルス・プロモーション (WHP) 活動論」日本赤十字看護大学大学院. 特別講義. 東京, 2019.1.4
3. 須藤茉衣子. 「特別研究方法論II」. 聖路加国際大学. 特別講義. 東京. 2019.7.20, 2019.8.3
4. 須藤茉衣子. 「看護学方法論I」. 聖路加国際大学. 特別講義. 東京. 2019.11.2, 2019.11.9

[社会貢献]

竹原健二

厚生労働省 2019 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業 出生前検査に関する実態調査研究 有識者会議委員
D&I 科学研究会（保健医療福祉における普及と実装科学研究会）世話人

須藤茉衣子

日本助産師会 乳幼児の望ましい授乳支援のあり方検討委員

青木藍

インドネシア「地方分権下における母子健康手帳を活用した母子健康プログラムの質の向上プロジェクト」調査団員, 独立行政法人国際協力機構. インドネシア. 2019.7.13-20

[受賞]

該当なし

[研究所運営への貢献]

竹原健二 防災対策委員

[情報発信・プレリリース]

1. 竹原健二. 「父親のモヤモヤ」取材記事, 朝日新聞デジタル, 2019.6.16
2. 竹原健二. 「『イクメン』どう思う? 子育てに横たわるモヤモヤとは」取材記事. 朝日新聞デジタル(web) . 2019.10.13

3. 竹原健二. 「父親のモヤモヤ」取材記事. withnews(web). 2019.10.22

[倫理委員会承認研究課題]

1. 須藤茉衣子. 日本スポーツ振興センター「学校安全に関する情報」を用いた、保育施設管理下における障害・死亡事例の検証
2. 須藤茉衣子. 「プレコンセプション・ヘルス」に関するヘルスリテラシー尺度の作成
3. 竹原健二. 母体血を用いた出生前遺伝学的検査 (NIPT) の受検者の動機や理解度に関するウェブアンケート調査 (略称: NIPT 受検者の動機や理解度に関する研究)
4. 竹原健二. 新型コロナウイルスに対する病院スタッフの認識と準備: グローバル調査

【2020年研究業績】

1. 誌上発表

(1) 英文原著

1. Risa Hashimoto, Maiko Suto, Mariko Tsuji, Hatoko Sasaki, Kenji Takehara, Akira Ishiguro, Masaya Kubota. Use of antipyretics for preventing febrile seizure recurrence in children: a systematic review and meta-analysis. *Eur J Pediatr*. 2020 Oct 30. doi: 10.1007/s00431-020-03845-8. Online ahead of print.
2. Maki Kawasaki, Naoko Arata, Naoko Sakamoto, Anna Osamura, Siori Sato, Yoshihiro Ogawa, Ichiro Yasuhi, Masako Waguri, Yuji Hiramatsu. Risk factors during the early postpartum period for type 2 diabetes mellitus in women with gestational diabetes. *Endocr J*. 2020;67(4):427-437. doi: 10.1507/endocrj.EJ19-0367.
3. Xiuting Mo, Ruoyan Gai Tobe, Yoshimitsu Takahashi, Naoko Arata, Tippawan Liabsuetrakul, Takeo Nakayama, Rintaro Mori. Economic evaluations of gestational diabetes mellitus screening: A systematic review. *J Epidemiol*. 2020 May 23. doi: 10.2188/jea.JE20190338. Online ahead of print.
4. Narumi Motegi, Naho Morisaki, Maiko Suto, Hiroshi Tamai, Rintaro Mori, Takeo Nakayama. Secular trends in longevity among people with Down syndrome in Japan, 1995-2016. *Pediatr Int*. 2020 Jun 21. doi: 10.1111/ped.14354. Online ahead of print.
5. Satoshi Narumi, Tetsu Ohnuma, Kenji Takehara, Naho Morisaki, Kevin Y Urayama, Tomoyuki Hattori. Evaluating the seasonality of growth in infants using a mobile phone application. *NPJ Digit Med*. 2020;3:138. doi: 10.1038/s41746-020-00345-9.
6. Kenji Takehara, Maiko Suto, Tsuguhiko Kato. Parental psychological distress in the postnatal period in Japan: a population-based analysis of a national cross-sectional survey. *Sci Rep*. 2020;10(1):13770. doi: 10.1038/s41598-020-70727-2.
7. Noyuri Yamaji, Maiko Suto, Yo Takemoto, Daichi Suzuki, Katharina da Silva Lopes, Erika Ota. Supporting the Decision Making of Children With Cancer: A Meta-synthesis. *J Pediatr Oncol Nurs*. 2020;37(6):431-443. doi: 10.1177/1043454220919711.
8. Nobuya Abe, Kenji Oku, Olga Amengual, Yuichiro Fujieda, Masaru Kato, Toshiyuki Bohgaki, Shinsuke Yasuda, Rintaro Mori, Eriko Morishita, Katsue Suzuki-Inoue, Tatsuya Atsumi. Potential therapeutics for antiphospholipid antibody associated thrombocytopenia: A systematic review and meta-analysis. *Mod Rheumatol*. 2020;30(1):116-124. doi: 10.1080/14397595.2018.1558934.

9. Olukunmi Omobolanle Balogun, Caroline Kaori Tomo, Keiji Mochida, Masashi Mikami, Henda da Rosa Vasconcelos, Isilda Neves, Hisakazu Hiraoka, Hirotsugu Aiga, Rintaro Mori, Kenji Takehara, Impact of the Maternal and Child Health handbook in Angola for improving continuum of care and other maternal and child health indicators: study protocol for a cluster randomised controlled trial. *Trials*. 2020;21(1):737. doi: 10.1186/s13063-020-04664-w.
10. Rie Omoya, Miho Miyajima, Katsuya Ohta, Yoko Suzuki, Ai Aoki, Mayo Fujiwara, et al. Heart rate response to orthostatic challenge in patients with dementia with Lewy bodies and Alzheimer's disease. *Psychogeriatrics*. 22 October 2020. doi: 10.1111/psyg.12625
11. Maiko Suto, Tetsuya Isayama, Naho Morisaki. Population-based analysis of secular trends in age at death in trisomy 18 syndrome in Japan from 1975 to 2016. *Neonatology*. 2020 (in press).
12. Maiko Suto, Celine Miyazaki, Yuko Yanagawa, Kenji Takehara, Tsuguhiko Kato, Ruoyan Gai, Erika Ota, Rintaro Mori. Overview of evidence concerning school-based interventions for improving the health of school-aged children and adolescents. *Journal of School Health*. 2020 (in press).

(2) 英文総説・著書
該当なし

(3) 和文原著
該当なし

(4) 和文総説・著書

1. 橋本直也, 竹原健二. スマートフォンを活用した小児遠隔健康医療相談における疑問解決に関わる因子の検討. *日本小児科学会雑誌*. 2020;124(2):246.
2. 橋本梨沙, 須藤茉衣子, 辻麻理子, 佐々木八十子, 竹原健二, 石黒精, 久保田雅也. 熱性けいれんの再発予防に対する解熱剤の効果 システマティックレビュー. *脳と発達*. 2020;52:S279
3. 細田愛子, 荒田尚子, 梅原永能, 佐藤志織, 飯村祐子, 川崎麻紀, 岡崎有香, 河野千慧, 三戸麻子, 金子佳代子, 村島温子. バセドウ病合併妊婦への無機ヨウ素治療による胎児甲状腺腫の一例. *日本内分泌学会雑誌*. 2020;95(4): 1349.
4. 須藤茉衣子. システマティックレビューの概要, *日本小児アレルギー学会誌*. 2020;34(4):445.
5. 川崎麻紀, 荒田尚子. 妊娠糖尿病合併症 妊娠高血圧症候群は分娩後に高率に糖尿病、高血圧を発症する妊娠糖尿病女性は分娩後高率に糖尿病、メタボリックシンドロームを発症する. *日本内分泌学会雑誌*. 2020;96(1):165.
6. 竹原健二. 【周産期キーワード 30 アップデート 最新&レベルアップの知識で助産力を磨く】産褥 父親の産後うつ. *ペリネイタルケア*. 2020;39(10):1060-1061.
7. 須藤茉衣子. 乳腺炎ケアガイドライン 2020. *日本助産学会・日本助産師会*. 2020.4月
8. 山本依志子. リンケージ解析からみた妊産婦死亡の現状と国際比較. *日本の妊産婦を救うために 2020 第9章*. 2020.4月
9. 盛一享徳, 須藤茉衣子. 科学的根拠から見た乳幼児の栄養. *食と医療*. 2020 vol.12

2. 学会発表

(1) 国際学会講演・シンポジウム
該当なし

(2) 国際学会等一般演題発表

1. R Gai, T Bolt, G Chen, Y Yamamoto. Valuating the CHILD Health Utility 9-Dimention in JAPAN: Results from a Nation-Wide School-Based Survey 2020 ISPOR Asia Pacific

(3)国内講演・シンポジウム等

1. 川崎麻紀,荒田尚子「妊娠糖尿病女性は分娩後高率に糖尿病、メタボリックシンドロームを発症する」第93回日本内分泌学術総会. 浜松. 2020年6月
2. 川崎麻紀.「教育講演 糖代謝異常女性のプレコンセプションケアを考える」第36回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会. 京都. 2020年11月
3. 川崎麻紀,荒田尚子, 杉山隆, 守屋達美, 平松祐司「妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠の妊娠転帰および母児の長期予後に関する登録データベース構築による多施設前向き研究に関する多施設前向き研究」進歩状況. 第36回日本糖尿病・妊娠学会年次学術集会. web開催. 2020年11月
4. 須藤茉衣子.「システムティックレビューの概要」第57回日本小児アレルギー学会学術大会. Web開催. 2020.10.31-11.1
5. 小林徹, 須藤茉衣子, 蘇哲民, 小林しのぶ, 竹原健二, 中村好一.「川崎病診療実態を明らかにするためのレセプト情報・特定健診等情報データベースを用いた横断調査」第40回日本川崎病学会・学術集会. Web開催. 2020.10.30-31
6. 青木藍. Fellowship Award Symposium 3「Mental health and work life balance of psychiatrists」第116回日本精神神経学会学術総会. 座長. 2020.9.28-30

(4)国内学会一般演題

1. 川崎麻紀, 荒田尚子, 佐藤志織, 和栗雅子, 安日一郎, 長村杏奈, 坂本なほ子.「妊娠糖尿病診断時の指標による産後糖尿病発症のハイリスク群の同定」第21回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会. Web開催. 2020年10月
2. 須藤茉衣子, 野村理, 加藤承彦, 竹原健二. 日本スポーツ振興センター『『学校事故事例検索データベース』を用いた、保育施設管理下における死亡・障害事例の検証」第67回日本小児保健協会学術集会. Web開催. 2020.11.4-11.6
3. 竹原健二, 須藤茉衣子, 加藤承彦.「産後1年間における父親および母親の精神的不調の頻度と関連要因—国民生活基礎調査2016の二次データ解析—」第30回日本疫学会学術総会. 京都. 2020年2月
4. 加藤承彦, 竹原健二, 須藤茉衣子, 三瓶舞紀子, 本多由起子.「乳幼児を養育するシングルマザーのメンタルヘルスと生活の状況：国民生活基礎調査を用いた分析」第30回日本疫学会学術総会. 京都. 2020年2月
5. 橋本直也, 竹原健二.「スマートフォンを活用した小児遠隔健康医療相談における疑問解決に関わる因子の検討」第123回日本小児科学会学術集会. オンライン開催. 2020.8.21

【研究費】

公的研究費（研究代表者）

1. 厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「わが国における

父親の子育て支援を推進するための科学的根拠の提示と支援プログラムの提案に関する研究」竹原健二（直接経費 8,779 千円）

2. 厚生労働科学研究費補助金 厚生労働行政推進調査事業費補助金「わが国におけるゲノム編集技術などを用いたヒト受精胚等の臨床利用のあり方に対する関係者の意識調査～Web 調査による横断的研究～」竹原健二（直接経費 8,000 千円）
3. 運営交付金 横断的研究推進事業「6NC 連携による医療政策研究等を目的とした NDB 研究体制構築のための研究」竹原健二（直接経費 2,800 千円）
4. 運営交付金 横断的研究推進事業「実装科学推進のための基盤構築事業」竹原健二（直接経費 6,000 千円）
5. 日本学術振興会 学術研究助成基金助成金（若手）「保育の質と安全を保障する、保育施設設置基準の再検討に関する調査研究」須藤茉衣子（直接経費 1,100 千円）
6. 日本学術振興会 学術研究助成基金助成金（若手）「保育の質・安全に関する調査研究-保育中の事故要因に注目して」須藤茉衣子（直接経費 1,300 千円）
7. 成育医療研究開発費「妊娠期からの切れ目のない子育て支援で必要とされている”ケア”内容と支援者の課題」須藤茉衣子（直接経費 840 千円）
8. 日本学術振興会 学術研究助成基金助成金(若手)「妊娠糖尿病既往女性における産後の体重変化と糖尿病発症抑制の評価」川崎麻紀（直接経費 1,200 千円）

公的研究費（研究分担者）

1. 厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「わが国の至適なチャイルド・デス・レビュー制度を確立するための研究」竹原健二（直接経費 5,000 千円）
2. 厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業「こどもの傷害情報の解析に基づいた外傷と傷害予防のための研究」竹原健二（研究代表者一括管理）
3. 日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業「周産期・小児領域における高品質臨床研究推進のための臨床研究コンソーシアム」竹原健二（研究代表者一括管理）
4. 日本医療研究開発機構 地球規模保健課題解決推進のための研究事業「カンボジアにおける分娩監視装置導入と、その死産・新生児死亡の減少効果に関する研究開発」竹原健二（直接経費 1,807 千円）
5. 成育医療研究開発費「成育医療分野における研究教育・人材育成のための基盤構築プロジェクト」竹原健二（主任一括管理）
6. 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究（A）「包括的な疾病負荷分析に基づく我が国の保健政策課題の実証的研究」山本依志子（直接経費 1,100 千円）

私的研究費（研究代表者）

1. JICA 受託研究費「母子手帳が母子保健指標に与える影響の調査（インパクト調査）」竹原健二（直接経費 11,270 千円）

【その他】

[講演等]

1. 竹原健二.「お父さんにも支援が必要！～子育て中の父親エンパワメント」(オンライン講演). 淑徳大学大学院. 千葉. 2020.10.9
2. 竹原健二.「実装研究とは」健康情報学特別講演(オンライン講演). 京都大学大学院医学研究科. 京都. 2020.11.26
3. 竹原健二.「アンゴラ共和国での母子健康手帳の導入に関する実装研究の実例紹介」(オンライン講演). 独立行政法人国際協力機構. 東京. 2020.12.1
4. 青木藍.「アンゴラ共和国での母子健康手帳の導入に関する実装研究の実例紹介」健康情報学特別講演(オンライン講演). 京都大学大学院医学研究科. 京都. 2020.11.26
5. 青木藍.「アンゴラ共和国における母子健康手帳の実装研究」. RADISH (オンライン講演). 東京. 2020.11.27
6. 青木藍.「アンゴラ共和国での母子健康手帳の導入に関する実装研究の実例紹介」. (オンライン講演). 独立行政法人国際協力機構. 東京. 2020.12.1

[教育活動]

1. 竹原健二.「研究の質の評価と政策提言」(オンライン講義). 淑徳大学大学院看護学研究科. 千葉. 2020.10.29
2. 竹原健二.「保健医療政策学について」(オンライン講義). 筑波大学人間総合科学研究科. つくば. 2020.11.12
3. 須藤茉衣子.「看護学方法論I」. 特別講義. 聖路加国際大学. 東京. 2020.10.31, 2020.11.14

[社会貢献]

竹原健二

聖路加国際大学公衆衛生大学院 実践課題審査 審査員
厚生労働省 2020 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「多胎児の家庭等に対する子育て支援に関する調査研究」調査研究委員会委員長
D&I 科学研究会（保健医療福祉における普及と実装科学研究会）世話人
日本小児保健協会子育て支援包括支援委員会委員
三重県予防のための子どもの死亡検証(CDR: Child Death Review)体制整備モデル事業第1回政策提言委員会・第1～3回多機関検証委員会会議オブザーバー
山梨県予防のための子どもの死亡検証体制事業(山梨県 CDR 他機関検証委員会)第1回多機関検証委員会会議オブザーバー

矢竹暖子

三重県予防のための子どもの死亡検証(CDR: Child Death Review)体制整備モデル事業第1回政策提言委員会・第1～3回多機関検証委員会会議オブザーバー
山梨県予防のための子どもの死亡検証体制事業(山梨県 CDR 他機関検証委員会)第1回多機関検証委員会会議オブザーバー

青木藍

日本精神神経学会国際委員会委員

第116回日本精神神経学会学術総会 世界各国の若手精神科医との国際的ネットワーク構築に向けたオンラインミーティングファシリテーター

[受賞]

川崎麻紀

2020年度日本糖尿病・妊娠学会、研究奨励賞・大森賞

第21回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会、一般演題部門、会長賞

須藤茉衣子

第67回日本小児保健協会学術集会、若手研究奨励賞

[研究所運営への貢献]

竹原健二 防災対策委員、倫理予備審査委員会。

[情報発信・プレスリリース]

1. 竹原健二.「父親にも“産後うつ”のリスク 厚労省が実態調査へ」取材記事. NHKニュース(web)2020.8.16
2. 竹原健二.「産後のうつ」のリスク 父親も母親と同水準 年間3万世帯か」取材記事. NHKニュース(web). 2020.8.30.
3. 竹原健二.「父母「産後うつ」リスク年3万世帯」取材記事. 毎日新聞オンライン. 2020.9.10.
4. 竹原健二.「産後のメンタルヘルス不調で苦しんでいる夫婦は年間3万組 初の全国調査で判明」取材記事. 保健指導リソースガイド. 2020.9.14.
5. 竹原健二.「夫婦ともメンタル不調3.4%」取材記事. 時事.com. 2020.9.17.
6. 竹原健二.「父親の産後うつ パパだって、つらいんです」取材記事. NHKニュース(web)特集記事 NHK政治マガジン. 2020.10.7.
7. 竹原健二.「10人に1人の男性が危機!?働き盛りを襲う“パパうつ”」番組出演. NHK「首都圏情報 ネットドリ!」. 2020.11.13.
8. 竹原健二.「ママをやめてもいいですか!？」映画出演. 2020.2月上映
9. 竹原健二.「コラム パパの産後うつもある!？」プレジデントBaby 特集号 2020. 4. 28
10. 竹原健二.「男性にも産前・産後うつ? 食事と睡眠を優先して」取材記事. 時事メディカル. 2020.8.18

[その他の活動]

1. 竹原健二.インドネシア「地方分権下における母子健康手帳を活用した母子健康プログラムの質の向上プロジェクト」カウンターパート本邦研修. 独立行政法人国際協力機構. 講義. 東京. 2020.1.30-31
2. 竹原健二.2019年度コートジボワール国別研修「妊産婦・新生児継続ケア改善プロジェクト」独立行政法人国際協力機構. 講義. 横浜. 2020.2.18
3. Balogun Olukunmi Omobolanle.「Infants and Young Children Nutrition」(オンライン講義).

聖路加国際大学. 東京. 2020.10.23

4. Balogun Olukunmi Omobolanle. Overview of Health System in Nigeria (オンライン講義). 株式会社 TA ネットワーキング. 東京. 2020.11.13
5. 青木藍. インドネシア「地方分権下における母子健康手帳を活用した母子健康プログラムの質の向上プロジェクト」カウンターパート本邦研修, 独立行政法人国際協力機構. 講義. 東京. 2020.1.30-31
6. 青木藍. 2019 年度コートジボワール国別研修「妊産婦・新生児継続ケア改善プロジェクト」独立行政法人国際協力機構. 講義. 横浜. 2020.2.18

[倫理委員会承認研究課題]

1. 須藤茉衣子. 内閣府「特定教育・保育施設等における事故情報データベース」を用いた、認可保育所における重大事故の検証
2. 竹原健二. アンゴラ共和国における母子健康手帳の配布に関する実装研究
3. 竹原健二. わが国におけるゲノム編集技術などを用いたヒト受精胚等の臨床利用のあり方に対する患者団体、一般国民、および医療従事者への Web を用いた横断的質問紙調査
4. 竹原健二. 母子健康手帳の配布・使用に関する医療経済的な分析～アンゴラ共和国ベンゲラ州におけるクラスターRCT の追加調査～
5. 竹原健二. 基礎自治体における父親支援の実施状況に関する調査
6. 竹原健二. 子どものいる家庭の生活時間に関する実態把握～社会生活基本調査のデータを用いた解析～